

令和6年度 努力点推進計画

1 テーマ

自律して学ぶ宮前っ子の育成

2 テーマについて

近年、インターネット検索やSNS利用の低年齢化により、多く子どもたちが簡単に情報を手に入れることができるようになり、知識が豊富になっている。多くの情報を手に入れることができるようになった一方で、自己選択、自己決定がうまくできず、主体的な活動につながっていない子どもたちも多い。日々の生活や学習の場面においても、知識や技能はあってもそれをどのように活用すべきかを見い出せず、指示待ちとなり、いわゆる、受動的な学びになっているのではないかと考える。

そこで今年度からは、自己選択し自己決定することで、主体性を促し、自己調整できるような、「自律した児童の育成」を目指していきたい。

「ナゴヤ学びのコンパス」には、「子どもは有能な学び手であり、教師は伴走者」、「ゆるやかな協働の中での自律」とうたわれている。

本校では、昨年度までに個別最適な学びや協働的な学びを意識して努力点に取り組んできた。その結果、児童が問題解決のために、自分に適した課題に向き合ったり、自分たちで話し合ったりすることで以前よりも自ら活動する姿が見られた。しかし、つくられ過ぎた場での活動であったために、児童が「もっと〇〇したい」「〇〇をやってみたい」といった思いや願いに沿い切れなかった。

そこで、本年度は、教師が先導するのではなく、児童が主導となり、必要に応じて教師がサポートしていくような自由度の高い授業展開、つまり、「自由進度学習」を行うことで、学習に対して、受動的な児童が主体的な児童に変わっていくのではないかと考える。つまりは、自律した児童の育成につながると考える。よって、昨年度までの実践の改善と「ナゴヤ学びのコンパス」を意識した授業展開に重点を置き、「自由進度学習」に焦点を当てた実践に取り組んでいくことにする。子どもたちの願いを実現し、子どもたち自身が自己調整し、自律して学習に取り組める授業実践を目指していきたい。



3 目指す児童像

- ・令和6年度…自由進度学習を通して、「自己選択、自己決定」をし、「自己調整」ができる児童